

都市圏在住者（関西地方）との“本気”で語ろう会 会議録

団体名	都市圏在住者（関西地方）
日時	令和4年8月10日（水）19時00分から20時10分まで
場所	オンライン開催（7階OA研修室）
参加者	本市出身等の都市圏在住者（関西地方）：3名
	人口減少対策本部：2名
<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若いうちに一度外に出たいとの思いから、進学や就職により、関西にいる。</li> <li>・運転免許を持っていない。都市圏は交通機関が充実している。次のバスの時間を気にする必要がない。鹿屋に帰省する際に、空港バスで市内まではよいが、路線バスの便が少なく、親の迎えを頼むなど、不便さを感じる。</li> <li>・鹿屋、大阪両方で就職活動体験があるが、資格がない人が仕事を探すのはどちらも一長一短ある。 鹿屋：仕事の幅が狭いが、仕事は比較的簡単に決まる。時給が安い。 大阪：仕事の選択肢は広いが、倍率が高く簡単に決まらない。時給は高い。</li> <li>・鹿屋の方はあいさつをしっかりとる（あいさつの文化が残っている）。都市圏はあまりない。</li> <li>・工業系の卒業生は、資格とある程度のキャリアを積み、地元へ帰りたいが、鹿屋の企業情報がないとの声を耳にする。ダイレクトリクルートみたいなものがあればよい。</li> <li>・現在在籍している市立の看護大学は、市内居住による入学金減額、卒業後の市内就職による奨励金の支給（実質入学金0円）等の制度がある。</li> <li>・一度は都会に出てみたいと思う若者を無理に止めるよりも、都市圏に出て、一定期間働き、20代後半～30代で家庭を持った世代をどう戻すかを考えたほうがよい。例えば、Uターン者への手厚い補助や特別優遇措置等があればよい。</li> <li>・移住者よりも、地元に戻りたいと思っているUターン者をターゲットにすべき。高校と連携し、同窓会案内に、移住（Uターン）案内や就職案内を同封させるなどの取組を考えてみたらよいのではないか。</li> <li>・地元を離れ、外に出たことで、都市圏に出たい若者の気持ちも、出たからこそ気付く地元の良さも知ることができた。地元には、帰りたと思った時に、戻りやすい環境があればよいと思う。</li> <li>・若者が外に出ることを快く応援し、ふるさとへ帰ってくる方（Uターン等）を温かく支援するまちであってほしい。</li> </ul> <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市外に居住した理由・きっかけについて</li> <li>・都市圏の魅力・暮らし、鹿屋市とのギャップについて</li> <li>・鹿屋への愛着があるか、将来鹿屋に帰ってきたいか</li> <li>・親は、鹿屋に帰って来てほしいと望んでいるか</li> <li>・地元で選ぶお土産について</li> <li>・外からみた鹿屋の良さ・課題・望むこと</li> </ul>	

## 1 市外に居住した理由・きっかけについて

- 鹿屋市内の小・中学、高校卒業後、高校での就職先斡旋により、関西に就職。京都を経て現在大阪に就職。場所にこだわりはなかったが、県外に一度出たかった。家族と離れた場所を望み、関西を選択した。
- 鹿屋市内の中学から、近隣の高校を経て、看護師を目指し、自分が行きたい自治体（大阪・京都・兵庫）があったため、関西地方の大学に進学。若いうちは、都会で学びたい、遊びたいと思う気持ちが強かった。現在、看護師をしながら、大学院に進学している。
- 実家は鹿屋市だが、小・中学校は親戚のいる大阪に居住。高校3年間鹿屋にいたが、就職を機に大阪に居住している。

## 2 都市圏の魅力・暮らし、鹿屋市とのギャップについて

- 運転免許を持たないため、鹿屋では車がないと生活できず、都市圏に居住。（免許取得には費用もかかるため、今後も取得するつもりはない）  
大阪は、スーパーや薬局等24時間営業の店舗があり、交通も便利だが、田舎はまったり落ち着ける場所であり、実質的にどちらがよいと思うことはない。  
都市圏は、遊ぶ場所は多いが、社会人になれば休みもなく、堪能できる時間もない。
- 運転免許を持っていない。都市圏は交通機関が充実している。次のバスの時間を気にする必要がない。  
鹿屋に帰省する際に、空港バスで市内まではよいが、路線バスの便が少なく、親に迎えを頼むなど、不便さを感じる。  
鹿屋は、食材が新鮮で安い。近所付き合いもあり、近所から野菜をいただいたりするが、大阪では近所付き合い等、隣人とのコミュニケーションがない。
- 鹿屋に高校までしかおらず、鹿屋の良さはそれほど体感していない。原付で遊ぶ思い出くらいだが、地元が恋しく、帰省するのが楽しみである。関西は交通や、大型ショッピングモール等の立地による買物など便利なまちだが、生活はどこにいても変わらない。
- 鹿屋、大阪両方で就職活動体験があるが、資格がない人が仕事を探すのはどちらも一長一短ある。
  - ・鹿屋：仕事の幅が狭いが、仕事は比較的簡単に決まる。時給が安い。
  - ・大阪：仕事の選択肢は広いが、倍率が高く簡単に決まらない。時給は高い。
- 鹿屋の方はあいさつをしっかりとる（あいさつの文化が残っている）。都市圏はあまりない。
- 混みあう電車等が苦手であり、関西でもプライベート及び通勤ともに自家用車を利用している。鹿屋に帰っても、生活は変わらない。

## 3 鹿屋への愛着があるか、将来鹿屋に帰ってきたいか

- 市外に出てから、鹿屋への帰省を楽しみに、毎日外で戦って（仕事を頑張って）きたようなもの。ずっとホームシックであったのかもしれない。  
大阪で家を建てたが、家業を手伝うため、自宅を売却して、今年鹿屋に帰る予

定である。

- 看護職を目指し、大学進学を考えた際、市内には専門の大学がない。地元を離れるのなら、県内も県外も同じであるなら、都市圏に出たいと思った。親の偏見なのか、東京だけは許されなかったが、大学院を卒業したら、東京に就職したいと思っている。

今後、長いスパンで考えれば、将来ふるさとに帰りたいと思うかもしれないが現時点で、鹿屋に帰りたいとは思っていない。

- 地元には、兄弟も多く、親の近くにおり、自分が無理に地元に戻りたいとは思わない。やりたいことの有無より、免許を持たないため、鹿屋では生活できない。将来歳をとって、帰りたかった時に、帰ろうと思う。

#### 4 親は、鹿屋に帰って来てほしいと望んでいるか

- 高校卒業時は、地元に残りたいと思わず、父親からも都会に出るのも良いと言われていた。
- 兄弟が多く、地元の親元近くに居住しており、地元に戻ることを求められたことはない。
- 進学時は、東京以外なら出てもよいとの考えだった。やりたい仕事を見つけ、地元を離れてからは、親は何も言わない。

#### 5 地元で選ぶお土産について

- フェスティバルのスイートポテトなどが喜ばれる。
- 薩摩蒸気屋のかすたどん、かるかんなど
- さつま揚げ、ボンタンアメ、あく巻きなども美味しい。
- 保存が難しいが、鳥刺し。関西では醤油の味も違うので、帰省の際には、保冷してでも持ち帰る。
- 鹿屋航空基地の特攻機のフィギュアや戦闘もののゲーム、関連グッズなど、マニアで好きな人が多いので、もっと工夫して、お土産として、売り込めばよい。

#### 6 外からみた鹿屋の良さ・課題・望むこと

- 高校就職時は、現在ほどネットの普及もなく、地区ごとの紙媒体のファイルがあった。当時は、鹿屋の企業の情報を気にすることもなく、都会に出ることを考えていたため、意識してはいなかった。若者が一度は外に出たいと思う気持ちは普通の事であり、無理に止めるものでもないと思う。
- 現在でも、同級生とは定期的に連絡を取り合うなど、現在でも繋がっており、県外で一定期間勤務し、地元に戻りたいと思っている卒業生は多いと聞く。
- 工業系の卒業生は、資格とある程度のキャリアを積み、地元へ帰りたいが、鹿屋の企業情報がないとの声を耳にする。ダイレクトリクルートみたいなものがあればよい。  
⇒伝えたいが求める方の連絡先を把握できないため、地元の企業情報発信に努めていく必要がある。(事務局)
- 看護師は、市内にも大隅鹿屋病院や医療センターなど大きな病院もあり、資格の必要な仕事であるため、市内外問わず、就職・転職の情報も雇用もある。都

市圏と地方の地域手当分の賃金差はあるかもしれないが、どこにいても基本的に仕事は同じなので、地元に残ってもらう方策を考える必要があると思う。

- 現在在籍している市立の看護大学は、市内居住による入学金減額、卒業後の市内就職による奨励金の支給（実質入学金0円）等の制度がある。
- 一度は都会に出てみたいと思う若者を無理に止めるよりも、都市圏に出て、一定期間働き、20代後半～30代で家庭を持った世代をどう戻すかを考えたほうがよい。例えば、Uターン者への手厚い補助や特別優遇措置等があればよい。
- 就職情報が入ってこないため、就職サイトの充実が必要。人材を集めるためにも、Uターン支援フェアなど、もっと開催したらよい。
- 移住者よりも、地元に戻りたいと思っているUターン者をターゲットにすべき。高校と連携し、同窓会案内に、移住（Uターン）案内や就職案内を同封させるなどの取組を考えてみたらよいのではないか。
- 地元を離れ、外に出たことで、都市圏に出たい若者の気持ちも、出たからこそ気付く地元の良さも知ることができた。地元には、帰りたいと思った時に、戻りやすい環境があればよいと思う。
- よく出身地を尋ねられる機会があるが、鹿児島市以外だと、特に鹿屋は、読みづらく、以前は言いづらい雰囲気があった。しかし最近では、鹿屋体育大学や自衛隊の話題なのか、鹿屋を知っている方も多く、今後は自信を持って鹿屋のPRをしたいと思う。
- 若者が外に出ることを快く応援し、ふるさとへ帰ってくる方（Uターン等）を温かく支援するまちであってほしい。
- 他の自治体の取組等も取り入れながら、自然豊かな歴史ある鹿屋を盛り上げる対策をしてほしい。